

2021年度 事業計画書 特定非営利活動法人ユースコミュニティー

はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応が求められる期間が大幅に長期化しつつある現在、私たちは団体運営、子どもの支援、事業の継続について、緊急避難的なサバイバルの段階から、新たな支援モデルを構築していく段階へと舵を切っていく必要性がでてきています。当面この状況が続くこと、そして感染症への対応をある程度求められなくなったとしても、元に戻らない（不可逆的な）深刻な変化がいくつも起こってしまった状況下では、活動そのものの在り方を少しずつ見直さなければならない時期にきています。

そんな中、昨年度から開始した拠点リーダーの育成、ファンドレイジング、そして地域団体との連携を強化し、内部および外部と連携した取り組みを強化していきます。

1 学習支援事業の基本方針

私たちは、子ども達の支援を契機にした、支援者のコミュニティーづくりを目指しています。こうしたコミュニティーそのものが子ども達の居場所になっていることに確信を持っています。引き続き、教室拠点ごとの伝統と文化、そして子ども達の特性を大切にしながら、温かい学習支援活動を行っていきます。

事業ごとの計画予定

1) 自主事業：地域の子どもの学習支援（自由塾）

- ◆大森教室（ヴェルデ）
- ◆池上教室（テラッコ）
- ◆仲池上教室（パル）
- ◆はすぬま教室（ふれあいはすぬま）
- ◆糀谷教室（池上長寿園⇒糀谷文化センター）
- ◆蒲田教室（M I C S おおた）

2) 委託事業：大田区から委託を受けて実施している学習支援活動

- ・（原則中学3年生を対象に）区内4か所11クラスの運営を行います。
- ・常勤スタッフを配置できる委託授業ならではの優位性をいかし、市民活動（自主事業）では手が回らない、保護者への定期的な相談活動やオンライン学習の充実を取り組みます。

2 組織の基盤強化

- ・（4月から開始した）ボランティア希望者への説明会（スタートアップ研修）を継続。今後は、ベテラン、数か月、数回など参加期間に応じての研修会の開催も検討していきます。
- ・支援者間のコミュニケーションの機会をふやすための、教室ごとの会議や学習会の開催を積極的に開催していきます。
- ・改訂した学習サポーターマニュアルを活用し、あらためて子ども達との関わり方、個人情報、教室運営など拠点のブラッシュアップを目指していきます。

【具体的な取り組み】

- ①拠点リーダー会議
- ②ボランティアコーディネーターや個人情報の取り扱いのための学習会
- ③教室ごとやキャリア経験ごとに分けたボランティア会議・学習会の開催

3 賛助会員・ファンドレイジング（マンスリー会員、クラウドファンディング）

- ・安定した活動に取り組むため、寄付や賛助会員制度をさらに拡充していきます。

- ・赤字経営となっている教室でも、継続させるための資金調達を強化します。
- ・既存スタッフへの賛助およびマンスリー会員への協力要請をしていきます。

【具体的な取り組み】

- ①支援者獲得のための子どもの現状学習会&成果報告会の定期開催（年度内3～4回開催）
- ②属性ごとのマンスリー会員の確立⇒委託事業のアルバイトスタッフのアルムナイ会員など
- ③年度内のどこかの期間にファンドレイズプロジェクトを実施
- ④前段の組織強化で提案された内部学習会・研修会に置いて賛助会員とマンスリー会員の協力を要請していく
- ④日本ファンドレイジング協会の研修に参加して団体内部のスキルを高める
- ⑤SDGS気運を受け、企業との懇談会の開催を検討

4 地域活動への参画と市民活動の推進

- ・地域の活動（自治会、町会などの活動）へ積極的に協力していきます。
- ・社協や行政主催の子どもの支援の企画に積極的に参画していきます。
- ・臨時休校や緊急事態宣言などの非常時において、ユースコミュニティーの規模（パブリック）にふさわしい活動（食材支援、インテーク面接）に取り組んでいきます。

【具体的な取り組み】

- ①運営委員の社会教育士の資格取得を推奨、バックアップしていきます。
- ②地域との合同イベントや他団体との合同会議などの参加を推進します。
- ③区議会議員懇談会など、行政へのイシューレイジングについても積極的に行っていきます。

5 新事業の開始について【検討事項】

- ・第3の居場所プロジェクト…日本財団と大田区と協働しての小学生の学習支援の開催
- ・子ども食堂（ユース食堂）の開催

6 その他、行政の委員選出など

- ・おおた子どもの生活応援プラン推進会議委員に代表濱住が今年度も選出されました。
- ・おおた区民活動交流会（30団体が加盟）の役員に代表の濱住が今年度も選出されました。

最後に ユースコミュニティーの果たす役割

子どもの支援活動に取り組む中での様々な困難を克服し、支援者を増やして社会課題に挑戦していく市民活動と地域団体や地縁団体および行政との協力を充実させ、困っている子どもがいたら大人が助けるあたりまえの地域社会をこの大田区に築き上げていきます。

困難を抱える子ども達が経済的に自立するだけでなく、彼らが将来大人になった時、困難を抱えている人を助けられる存在になるよう、ともに成長していきたいと思えます。

運営委員の行動指針【案】

- ・【学習】専門性を高めるため、苦手なことを克服するために、積極的に学びつづける。
- ・【協働】組織の内外の人たちとネットワークを広げ、良好な協力関係を築く。
- ・【リスク管理】ルールの遵守、子どもの安全管理、個人情報保護などへの意識を持つ。
- ・【建設的】批判や不平ではなく、どうすればよりよい状況を作れるか建設的に考える。
- ・【創造】よりよい状況のために必要なことを考え、生み出し続ける。
- ・【貢献】チームや組織のために貢献できることを考え、行動する。
- ・【意義】他の組織や行政のやることだと断定せず、私たちが行う意味や価値にこだわる。
- ・【模範】子ども達の模範となるべく、自らの生活を管理する。